

変態ジーパン娘  
奈々子②

狙われた変態女児  
目覚め始める新たな性癖  
快感狂いのJS5 前編

永田歩実

## 変態ジーンパン娘 奈々子 ②

狙われた変態女児 目覚め始める新たな性癖

快感狂いのJSS5 前編

はじめに

はじめまして。この本を手にとって頂けた事を誠に感謝いたします。

本書は背徳的なデニムフェティシズムに取り憑かれた幼い少女が、貪欲にその快楽を貪り、性的に成長していく物語となっております。

幼きながらも、その性欲という欲は、人間全てに公平に与えられたものであり、素晴らしくも儂きものでもあります。

この物語は、私の幼少期をモデルにしております。内容はお読み頂ければ分かるかと思いますが、とても少女とは思えないほどのアブノーマル（変態的）な内容です。しかし、独特なフェティシズムというものは誰もが心の奥底に宿しているものであり、背徳的なものであるほど、激しい性欲をかき立てるものなのです。

それでは、誰もいない場所で、デニムフェティシズムに取り憑かれた少女の変態自慰物語をお楽しみください。

## 目次

1	視姦されるジーパン娘	3
2	変態女兒愛好者 黒瀬朋香	9
3	背徳と恥辱の試着室	18
4	変態の血 渦巻くどす黒い性欲	34
	あとがき	46
	著者紹介	48

# 1 視姦されるジーパン娘

春が来た……

暖かい春。新しく小学五年生となった奈々子は、帰りのホームルームを聞きながら、早く終わらないかとそのピタピタのスキニージーンズの太股を周りに気づかれないように密かに擦り合わせていた……

（オナニーしたい…… 早くオナニーしたい……）

去年の冬に買ってもらった濃いインディゴブルーのスーパータイトスキニージーンズ。奈々子は色違いのグリーンオーバーダイと交互に毎日履いているためか、その二つのジーパンは股布や膝、お尻の部分がイヤらしく色落ちしており、特に股布の辺りは激しく色落ちしていた……

「それでは今日のホームルームはこれで終わりです。帰りは寄り道しないようにまっすぐ帰って下さいね」

担任の先生がホームルームの終わりを告げる。担任の先生は四年生から変わらず、黒瀬朋香先生だった。細身で地味目の先生だが、顔立ちは整っており綺麗な先生である。

（はぁ…… はぁ…… 先生、わたしのこと、すごいジロジロ見てる……）

奈々子は黒瀬からのイヤらしい視線を小学四年生のあの頃からひしひしと感じていた。

そう、イヤらしいスケベなデニムショートパンツを、学校に毎日履いて行くようになったあの頃から。

買ってもらったデニムショートパンツが二着ともすぐにサイズアウトし、冬からは今履いているビタビタのスキニージーンズ娘になった奈々子だったが、黒瀬の変態的な視線はあらゆるところで感じる事が出来た。

イヤらしいほどビタビタに覆われたスキニージーンズの下半身……

食い込んだアソコの部分…… ビタビタのお尻…… 細い太股やふくらはぎ……

その全てを味わい尽くすかのような、黒瀬の視線を感じるのだ……

いつからか、その視線に快感を感じるようになった奈々子。だから学校ではいつもたまらなかった。朝、家から出るときにトイレの中で、ノーパンでキツキツのスキニージーンズに足を通し、アソコにキツく食い込ませるように履く奈々子。

今日もまた、自分のスケベなジーパンの下半身を舐め回すように見つめられる……

それを想像するだけで、アソコからイヤらしい涎が溢れ出すのだ……

(はぁ…… はぁ…… もう我慢できない……)